

岡山県感染症週報 2013 年 第 33 週 (8 月 12 日～8 月 18 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年 第 33 週 (8/12～8/18) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 33 週 2 類感染症 結核 1 名 (70 代 女)

3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O 型別不明 : 50 代 女)

■定点把握感染症発生状況

○手足口病は、県全体で 218 名 (定点あたり 6.17 → 4.04 人) の報告があり、前週より減少しました。

○ヘルパンギーナは、県全体で 77 名 (定点あたり 2.41 → 1.43 人) の報告があり、前週より減少しました。

【第 34 週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O26 : 幼児 女 1 名、O121 : 幼児 女 1 名) の発生がありました。
(8 月 19 日、8 月 21 日)

1. 腸管出血性大腸菌感染症は、第 33 週に 1 名の報告があり、これまでの累計報告数が 43 名となりました。岡山県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。例年 7 月、8 月は 1 年のうちで最も発生が多くなることから、特に注意が必要です。手洗い等を徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、『今週の注目感染症』および、岡山県感染症情報センターホームページ [『腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中！』](#) をご覧ください。
2. 手足口病は、県全体で 218 名 (定点あたり 6.54 → 4.04 人) の報告があり、前週より減少しましたが、真庭地域と備中地域を除く地域では、ひきつづき発生レベル 3 となっています。詳しくは、『今週の注目感染症』をご覧ください。
3. ヘルパンギーナは、県全体で 77 名 (定点あたり 2.43 → 1.43 人) の報告があり、前週より減少しましたが、倉敷市、備北地域では、ひきつづき発生レベル 3 となっています。症状がおさまっても、2～4 週間の長期間にわたり、便の中にウイルスが排出されることもありますので、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋をするなど、感染予防に努めましょう。
4. 風しんは、発生報告はありませんでした。岡山県の第 33 週までの報告累計は 71 名となっています。全国の第 32 週までの累計報告数は、昨年同時期の約 12 倍となる 13,670 名で、ピークは過ぎたと思われるものの、依然、多数の患者が発生しています。詳しくは『風しん情報』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		★★★
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少

: 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. 腸管出血性大腸菌感染症

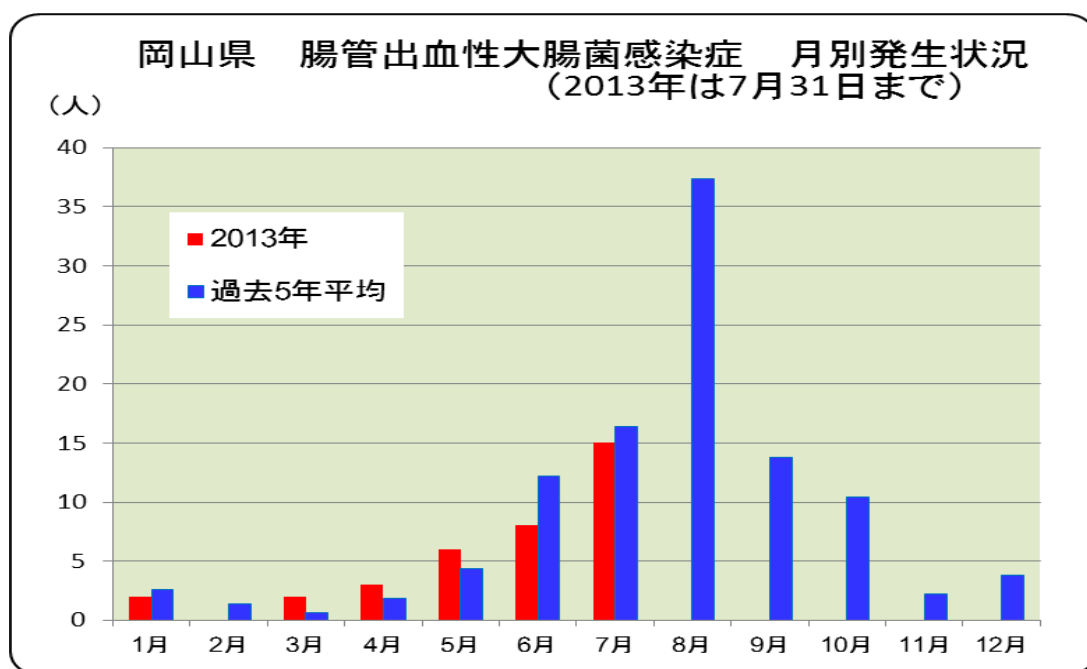
腸管出血性大腸菌感染症は、感染症発生動向調査において、全数把握感染症の3類感染症であり、医師は腸管出血性大腸菌感染症患者を診断したときには、直ちに最寄りの保健所に届出ることになっています。

また、学校保健安全法において、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで出席停止とされています。
[腸管出血性大腸菌 Q&A \(厚生労働省\)](#)

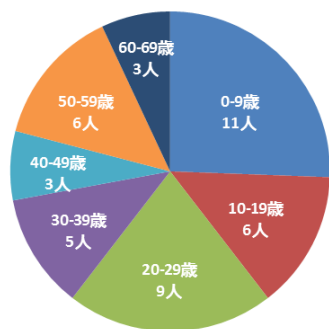
【岡山県の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】

岡山県では、第33週に1名の報告があり、今年はこれまでに43名が報告されています。過去5年の同時期とほぼ同数の発生ですが、例年7月、8月は1年のうちで最も発生が多くなりますので、ひきつづき感染に注意してください。

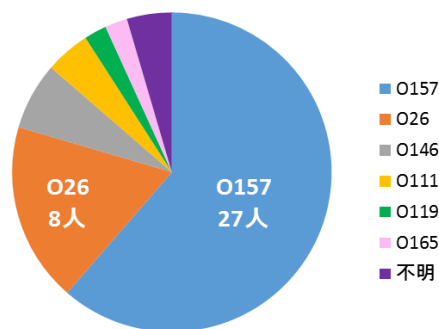
年齢別では、0～9歳 11名、20～29歳 9名の順で多くなっています。



2013年 岡山県 腸管出血性大腸菌感染症
年齢別割合 (n=43)



2013年 岡山県 腸管出血性大腸菌感染症
O血清型別発生状況 (n=44)

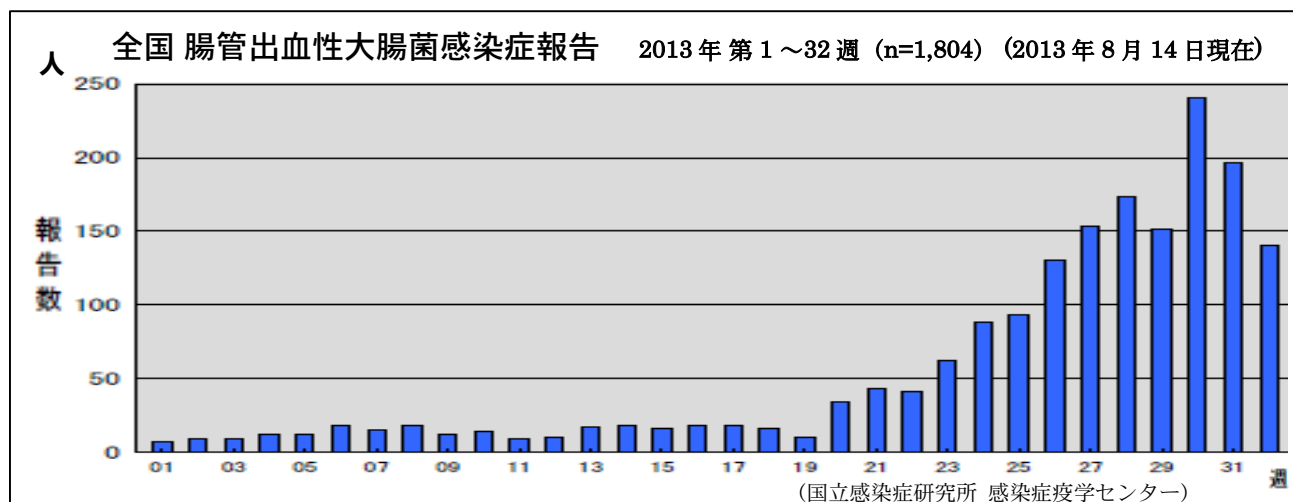


(一例O157とO111の混合感染あり)

(2013年8月18日まで)

血清型別では、O157が27名、O26が8名、O146が3名及びその他の血清型（不明含む）が6名で、O157が全体の約6割を占めています。

今年、岡山県では、これまでに腸管出血性大腸菌感染症による死亡例はありませんが、抵抗力の弱い子供や高齢者などでは、重症化しやすいので、特に注意が必要です。食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。



【全国の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】

全国の第 32 週までの累積報告数は、1,804 名でした。週別発生報告数を見ると、第 20 週頃から報告数が増加し始め、第 27 週以降は、1 週間の発生報告数が 150 名を超える週が多くなっています。

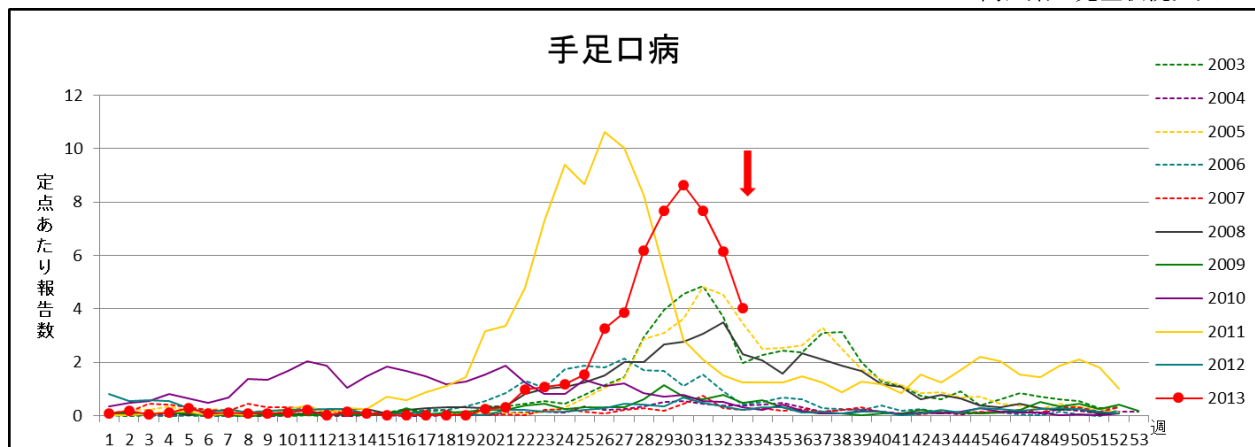
【腸管出血性大腸菌感染症とは】

O157 をはじめとするペロ毒素産生性の腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを、経口摂取することによって感染します。また、便の中に含まれる腸管出血性大腸菌による経口感染により、人から人への二次感染が起こります。症状は、無症候性のものから、重篤な合併症を起こし死に至るものまで、さまざまですが、多くの場合、3～5 日の潜伏期をおいて、軽度の発熱とともに、激しい腹痛、水様性下痢、血便などの症状が出ます。有症者の 6～7% で、下痢などの症状が出て数日から 2 週間以内に、溶血性尿毒症症候群 (HUS)、または脳症などの重篤な合併症を発症します。HUS を発症した患者の致死率は 1～5% とされています。

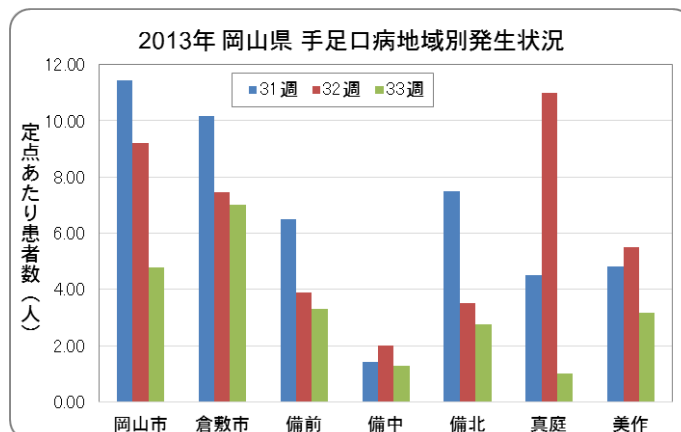
汚染食品からの感染が主体であることから、予防方法としては、食品を十分加熱する、調理後の食品はなるべく食べきる等の注意が大切です。特に、生肉または加熱不十分な食肉を食べないようにすることが重要です。人から人への二次感染については、トイレの後や食事・調理前などに手洗いを徹底すること等が、有効な感染予防になります。

2. 手足口病

岡山県の発生状況グラフ



手足口病は、県全体で 218 名（定点あたり 6.54 → 4.04 人）の報告があり、前週より減少しました。地域別では、倉敷市 (7.00 人)、岡山市 (4.79 人)、備前地域 (3.30 人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。真庭地域と備中地域以外の地域で、発生レベル 3 が継続しています。岡山県の過去 10 年の発生状況と比較すると、大流行となった 2011 年に次いで、大きな流行となっています。ピークは過ぎたと思われるものの、依然多くの患者が報告されていますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。



全国の第 32 週の発生状況は、定点当たり 7.95 人で、新潟県（21.03 人）、山梨県（17.92 人）、長野県（14.25 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

【手足口病とは】

夏に幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス A16 型、エンテロウイルス 71 型などが原因となります。患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスにより、経口感染します。症状は、3～5 日の潜伏期の後、軽度の発熱とともに、口腔粘膜、手掌、足底や足背に 2～3mm の水疱性発しんが出現するのが特徴です。3～7 日で水疱が消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス 71 型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行することなどが、有効な感染予防になります。

○手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が多く発生しています。

どちらの感染症も、ウイルスに対する特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。

また、口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、小さな子供では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながる場合がありますので、注意が必要です。

○保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがい・手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。

○体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

風しん情報

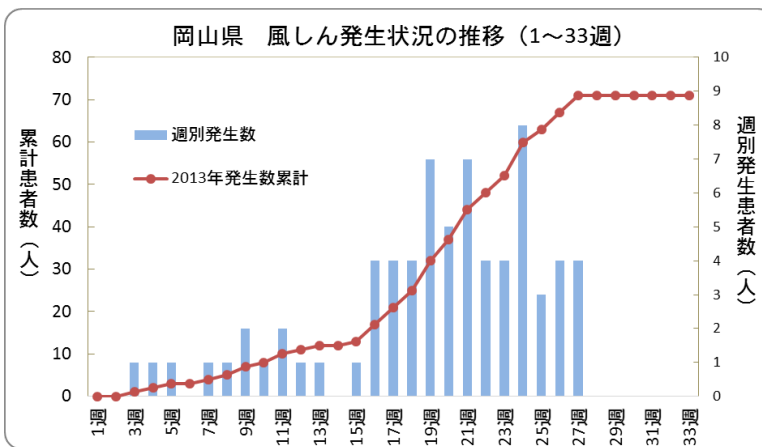
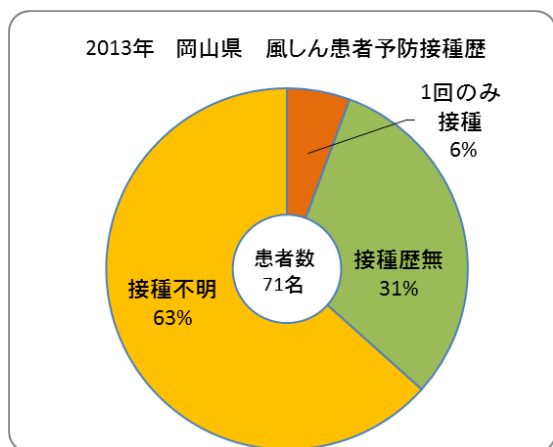
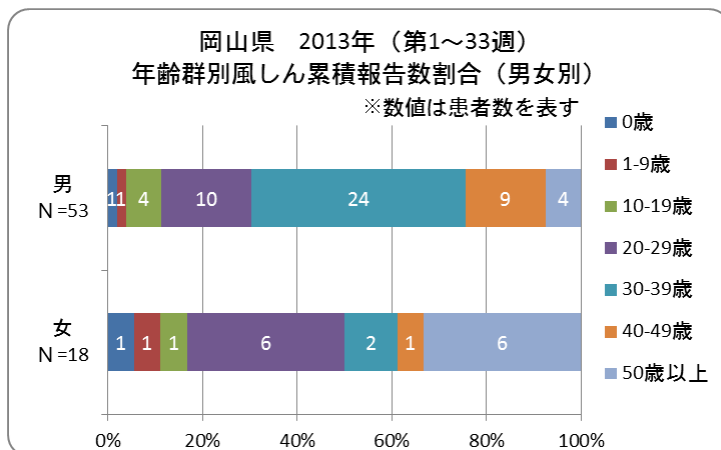
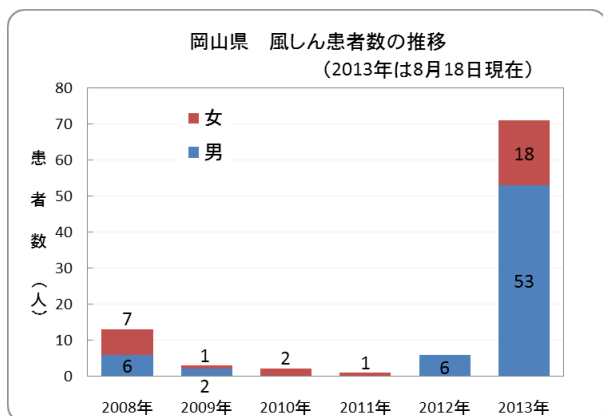
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年は、関東地方・近畿地方を中心に多数の患者が発生しています。風しんはせき、くしゃみ等の飛沫により感染します。また、夏休み期間である今の時期は、旅行などで人の移動も多くなり、感染の機会が増加します。全身性の発しん、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性がありますので早めに医療機関を受診してください。

[\(国立感染症研究所 風しん Q&A\)](#)

【岡山県の風しん発生状況】

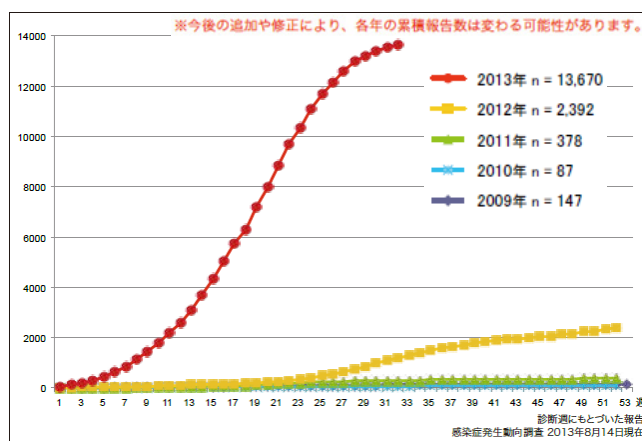
岡山県では、第33週の発生報告はありませんでした。岡山県の第33週までの報告累計は71名となっています。患者は、全国集計同様20～30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが22名、接種不明が45名、1回のみ接種が4名でした。



【全国の風しん発生状況】

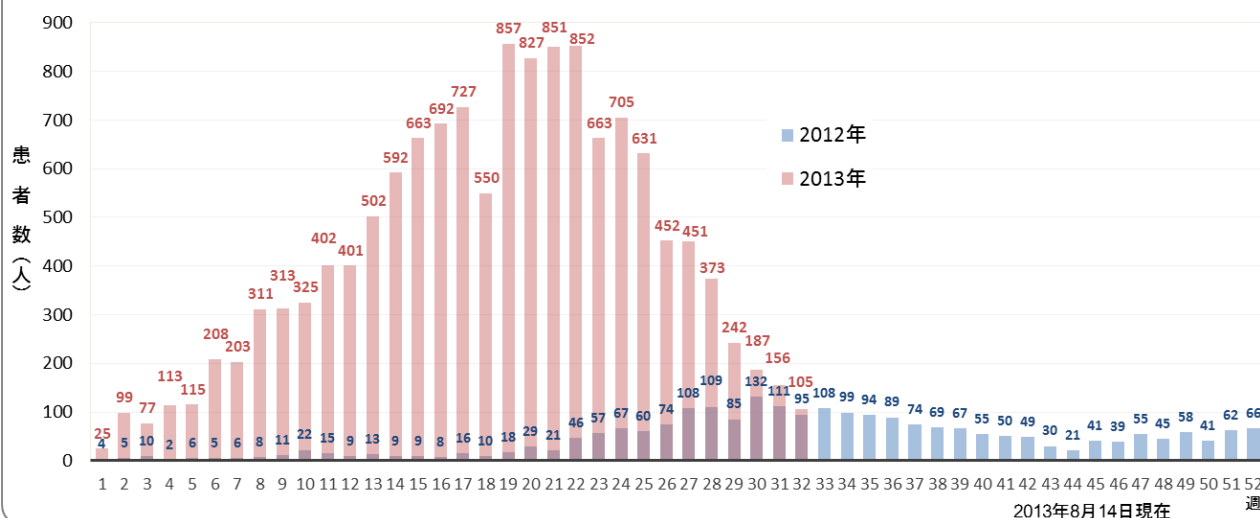
今年、全国の第32週までの累計報告数は13,670名であり、ピークは過ぎたと思われるものの、関東地方・近畿地方を中心に、依然、多数の患者が発生しています。患者の約8割は男性で、そのうち20～40代が82%を占めています。また女性は、20～30代が57%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかったか、集団接種から個別接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。

妊婦が風しんにかかり胎児に障がいが発生する先天性風しん症候群(CRS)は、2012年は5名でしたが、2013年は7月31日までに、すでに9名の発生がありました。

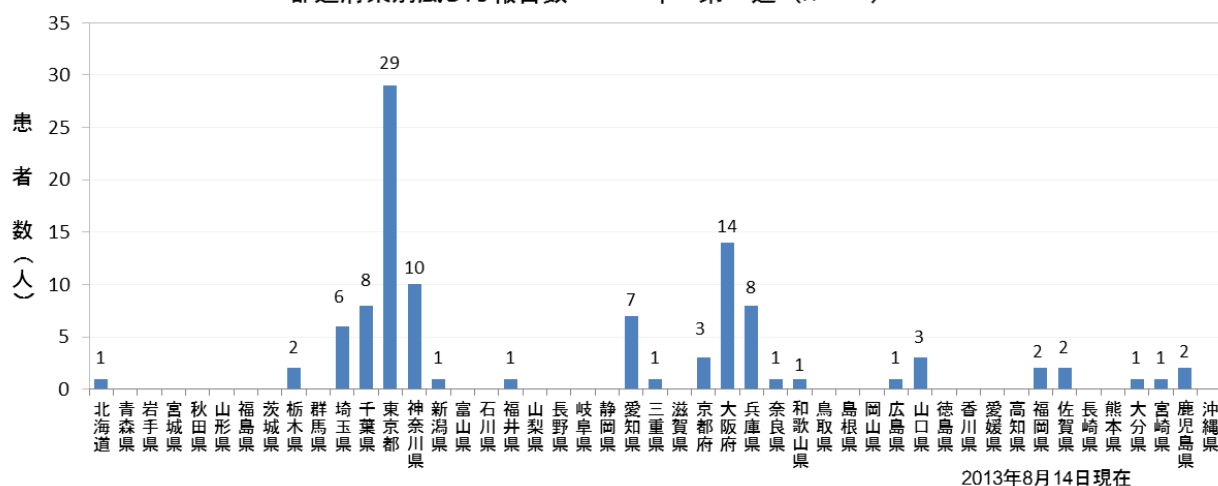


全国風しん累積報告数の推移 2009～2013年(第1～32週)
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

全国 風しん患者の週別発生状況 (2012年～2013年)



都道府県別風しん報告数 2013年 第32週 (n=105)



【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの定期予防接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受ける場合は、麻しんの対策も考慮し、麻しん風しん混合ワクチン（MR ワクチン）を接種することが推奨されています。5月・6月の任意の予防接種者数が、例年に比べて急激に増加したため、今夏以降にMR ワクチンが一時的に不足することが懸念されていましたが、関係者による前倒し出荷・増産等の対応や任意の予防接種者数の減少等により、今夏の全国的な不足は回避できる見込みです。

[おかやま医療情報ネット](#)から、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2013年 33週 (2013/08/12～2013/08/18)

2013年8月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	—	—	1	0.08	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	11	0.20	3	0.21	3	0.27	—	—	5	0.71	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	0.17	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1.00	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	0.28	10	0.71	—	—	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	206	3.81	18	1.29	64	5.82	53	5.30	11	1.57	21	5.25	3	1.50	36	6.00
水痘	36	0.67	5	0.36	8	0.73	13	1.30	1	0.14	1	0.25	—	—	8	1.33
手足口病	218	4.04	67	4.79	77	7.00	33	3.30	9	1.29	11	2.75	2	1.00	19	3.17
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	32	0.59	14	1.00	10	0.91	1	0.10	1	0.14	5	1.25	—	—	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	77	1.43	8	0.57	35	3.18	7	0.70	7	1.00	8	2.00	1	0.50	11	1.83
流行性耳下腺炎	4	0.07	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	4	4.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 33週 (2013/08/12～2013/08/18)

2013年8月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	—	—	1	0.08	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	0.17	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1.00	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	0.28	10	0.71	—	—	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	206	3.81	18	1.29	64	5.82	53	5.30	11	1.57	21	5.25	3	1.50	36	6.00
水痘	36	0.67	5	0.36	8	0.73	13	1.30	1	0.14	1	0.25	—	—	8	1.33
手足口病	218	4.04	67	4.79	77	7.00	33	3.30	9	1.29	11	2.75	2	1.00	19	3.17
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	77	1.43	8	0.57	35	3.18	7	0.70	7	1.00	8	2.00	1	0.50	11	1.83
流行性耳下腺炎	4	0.07	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。
今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第33週 2013/08/12～2013/08/18)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	11	－	2	5	3	1	－	－	－	－	－	－	－	－	
咽頭結膜熱	9	－	－	－	1	2	1	1	－	－	－	－	1	－	3
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	－	－	1	－	2	－	1	3	2	2	－	4	－	－
感染性胃腸炎	206	4	22	29	18	16	14	10	11	10	13	8	24	7	20
水痘	36	－	6	8	4	4	5	2	3	1	－	1	2	－	－
手足口病	218	6	27	73	43	28	9	14	3	2	5	1	4	－	3
伝染性紅斑	2	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
突発性発疹	32	2	16	12	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	77	－	11	26	12	11	4	2	1	2	2	1	4	－	1
流行性耳下腺炎	4	－	－	－	1	2	－	－	1	－	－	－	－	－	－

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

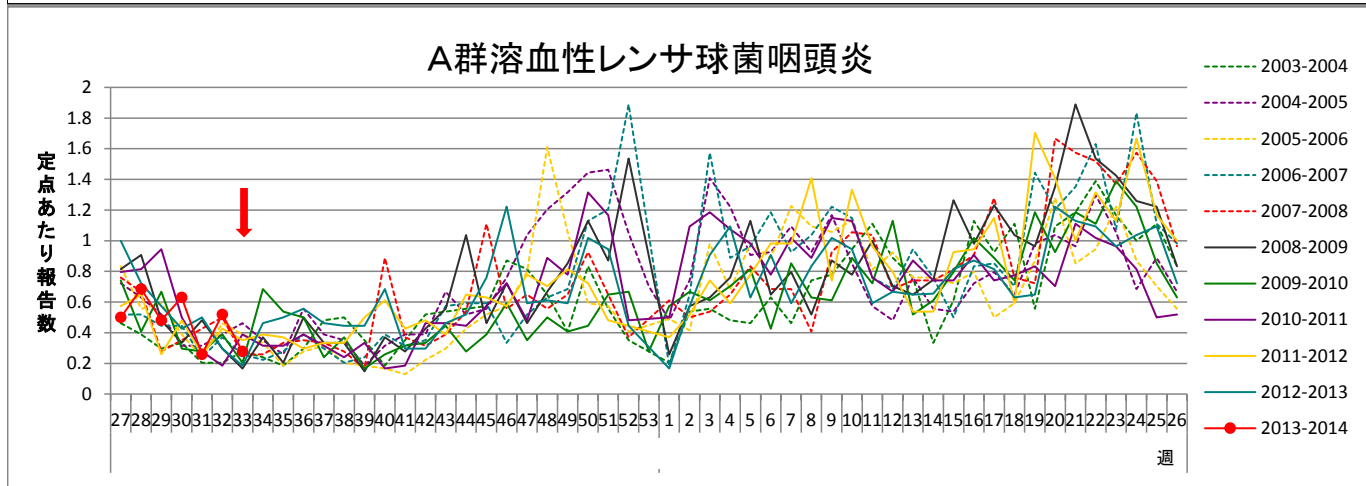
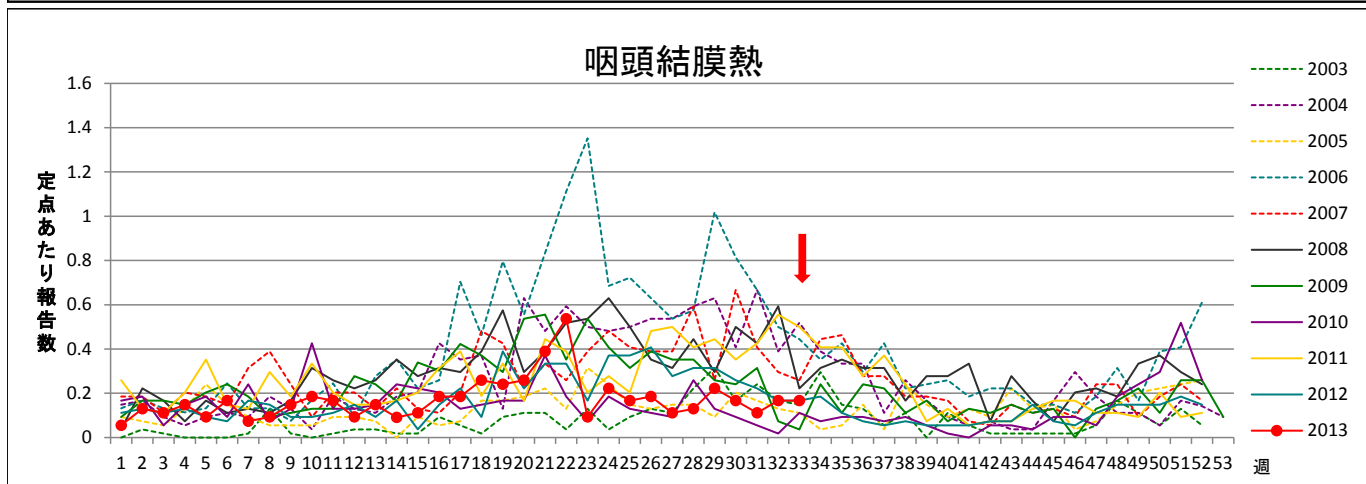
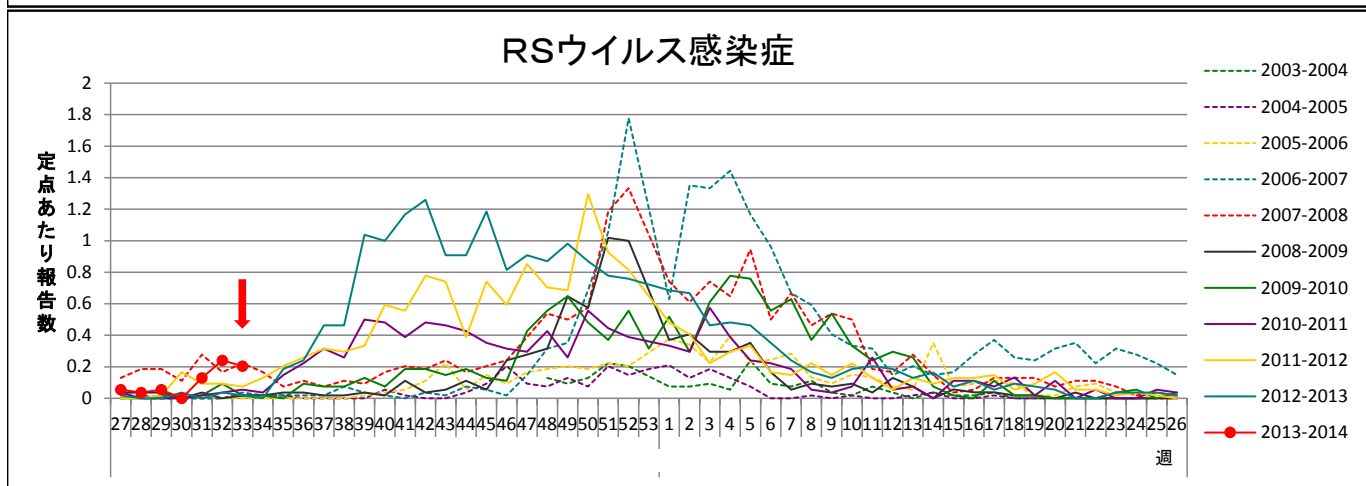
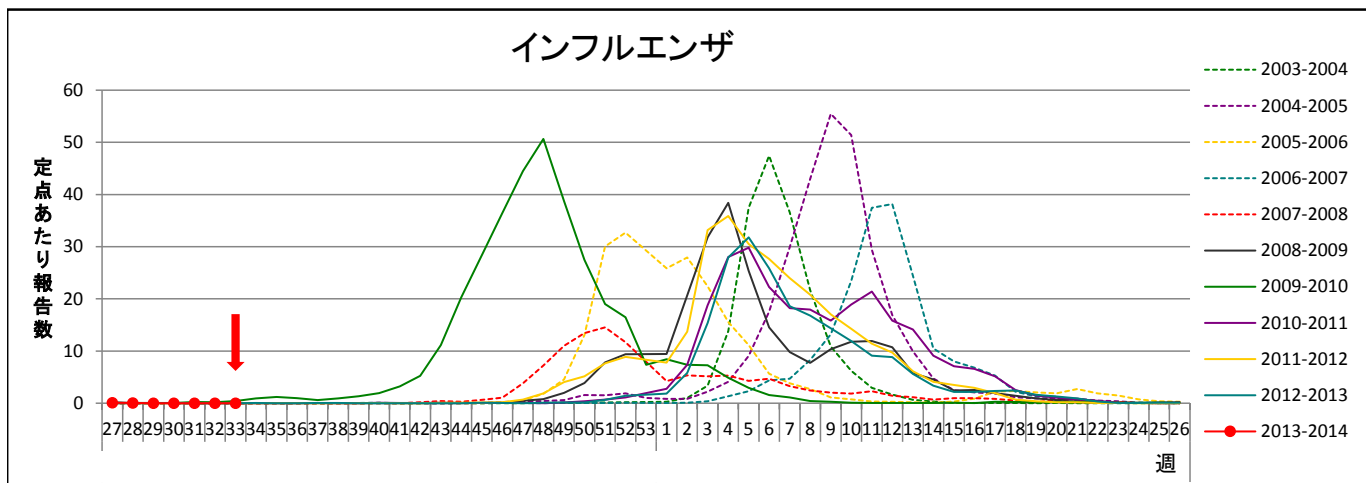
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

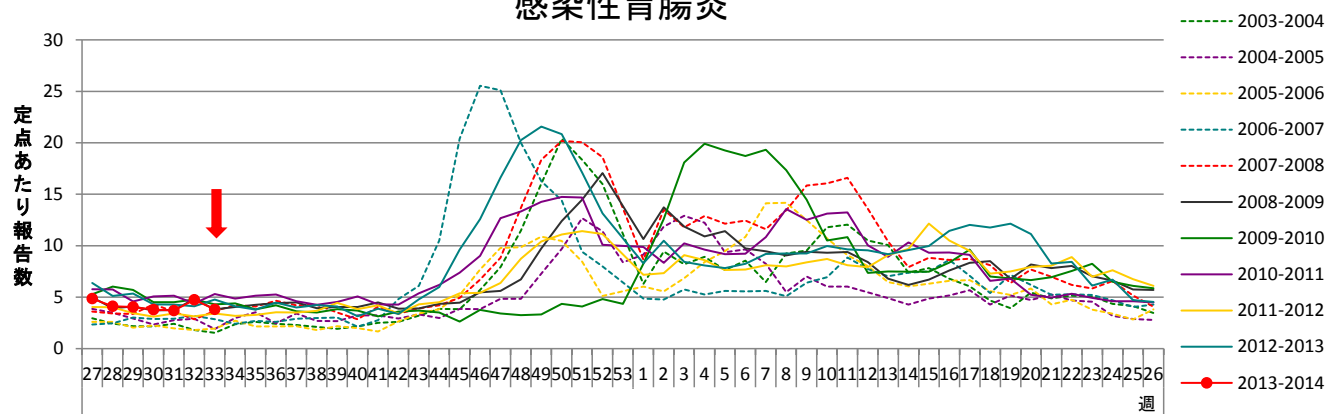
全数把握 感染症患者発生状況

2013 年 33 週

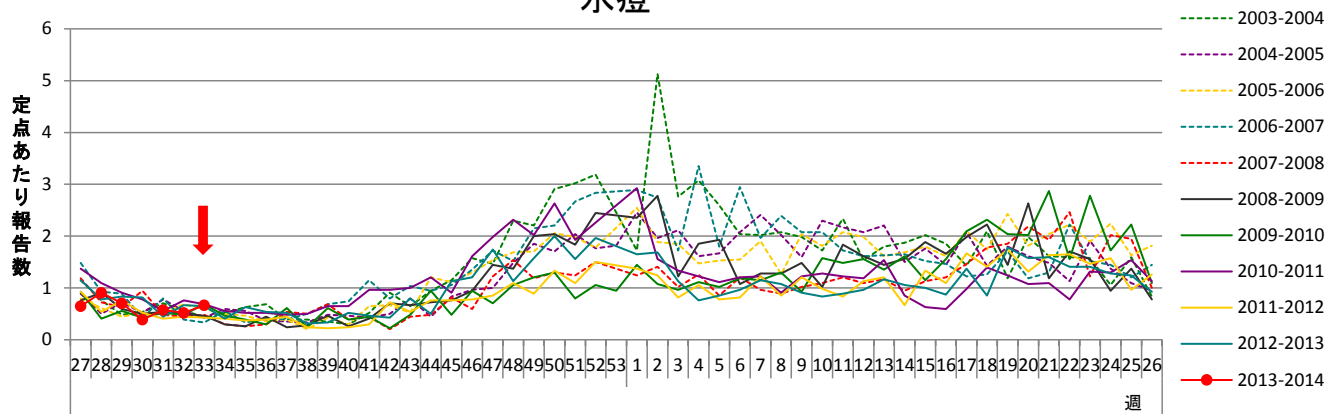
分類	疾病名	2013			2012	2013	2012	2013	2012	2013	2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	今週	累計	今週	累計
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 鳥インフルエンザ(H5N1)	1	225	477	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-		-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	43
	腸チフス	-	-	1		-	-	-		-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 重症熱性血小板減少症候群 ダニ媒介脳炎 つつが虫病 鳥インフルエンザ 日本紅斑熱 鼻疽 ヘンドラウイルス感染症 マラリア リッサウイルス感染症 レジオネラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	-	5
	エキノコックス症	-	-	-		-	-	-		-	-
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	Q熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	サル痘	-	-	-		-	2	-		-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	チクングニア熱	-	-	-		-	-	2		-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	日本脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	Bウイルス病	-	-	-		-	-	-		-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	ポツリヌス症	-	-	-		-	-	-		-	-
	ライム病	-	-	-		-	-	-		-	-
	類鼻疽	-	-	-		-	13	29		-	1
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-
五類	アメーバ赤痢	-	8	11	ウイルス性肝炎*3 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 侵襲性肺炎球菌感染症 破傷風 風しん	-	6	7	急性脳炎*4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 先天性風しん症候群 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染 麻しん	-	4
	クリプトスポリジウム症	-	-	-		-	3	1		-	1
	後天性免疫不全症候群	-	8	16		-	-	3		-	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-		-	10	-		-	-
	梅毒	-	3	7		-	2	1		-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	2		-	71	6		-	2



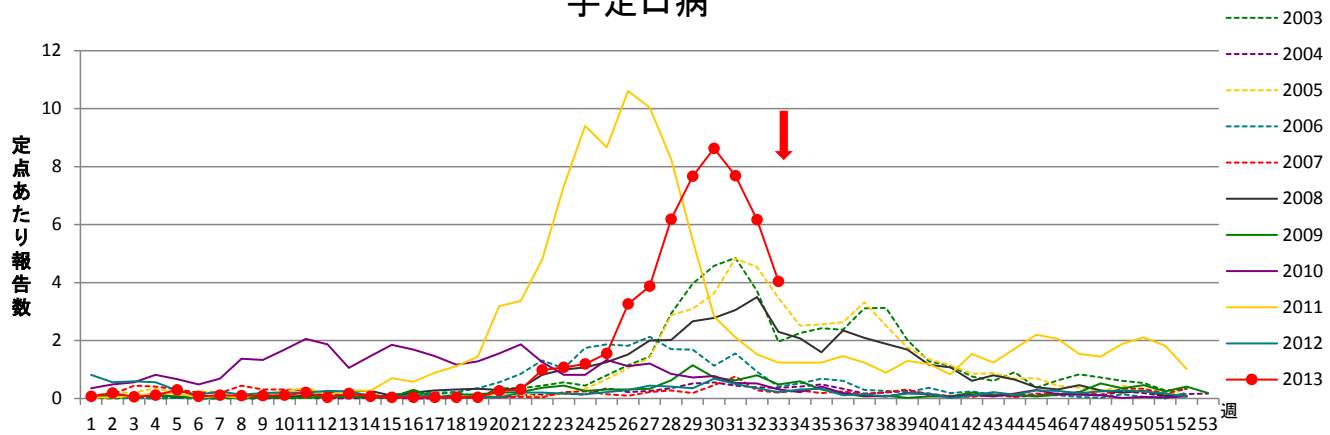
感染性胃腸炎



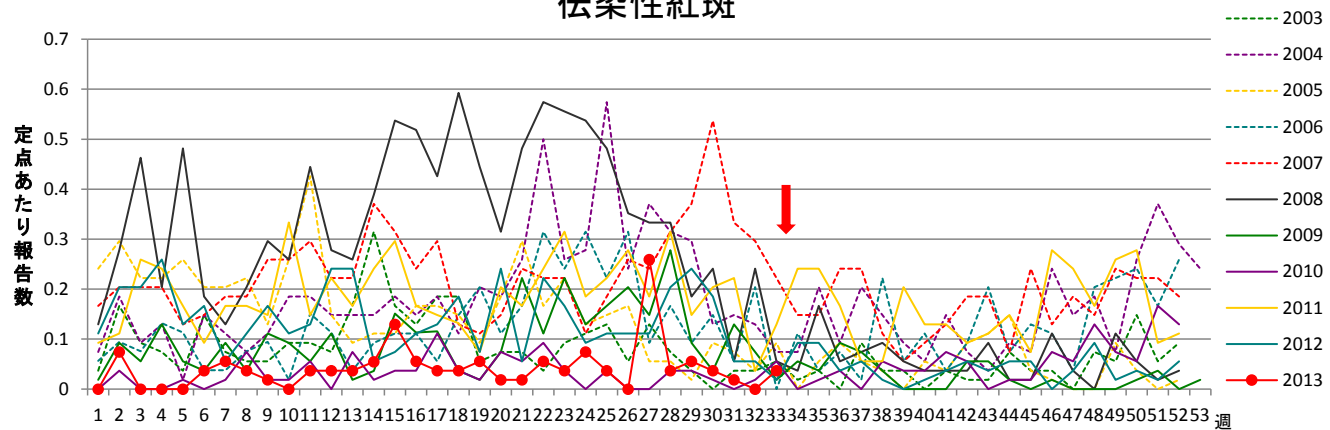
水痘



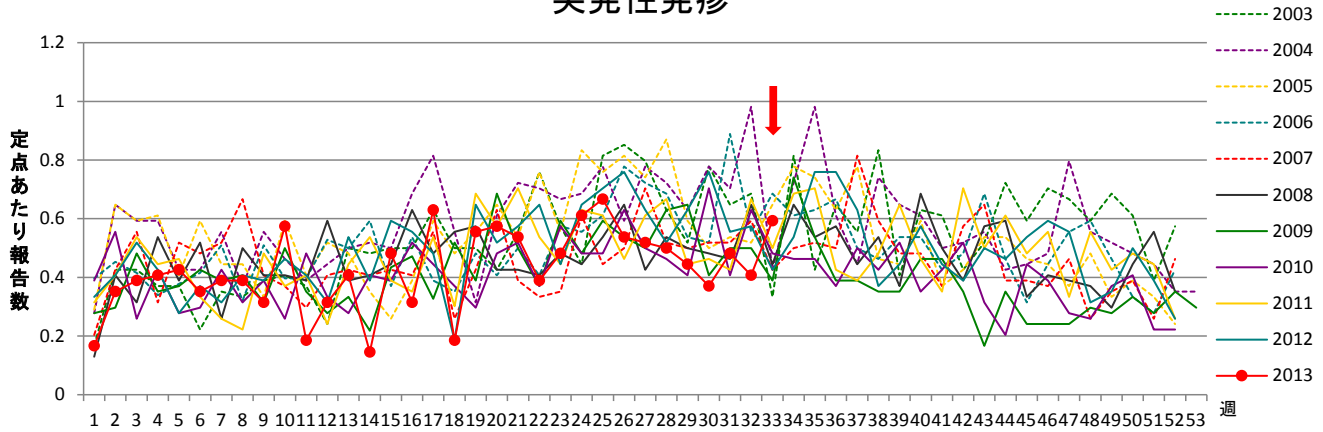
手足口病



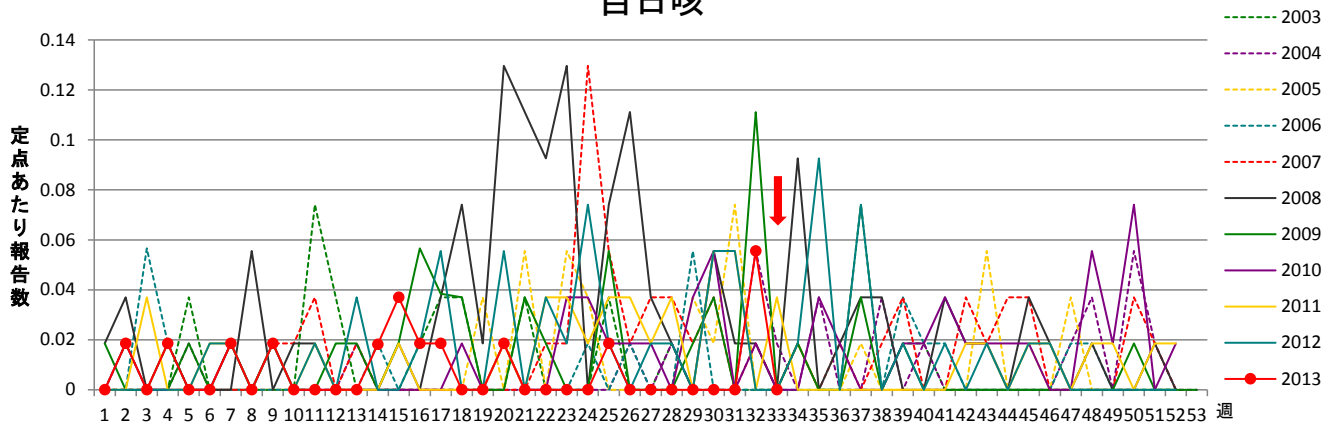
伝染性紅斑



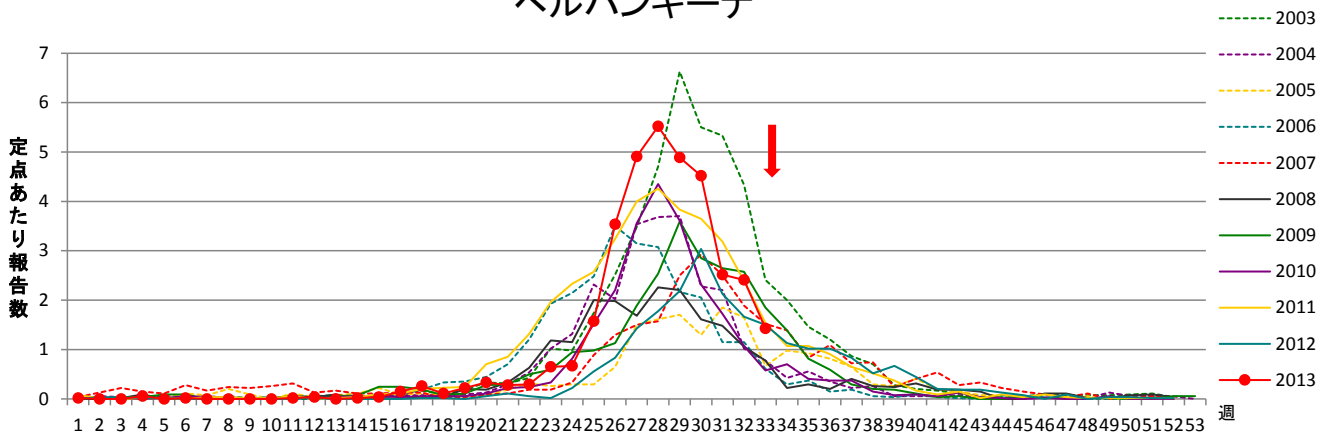
突発性発疹



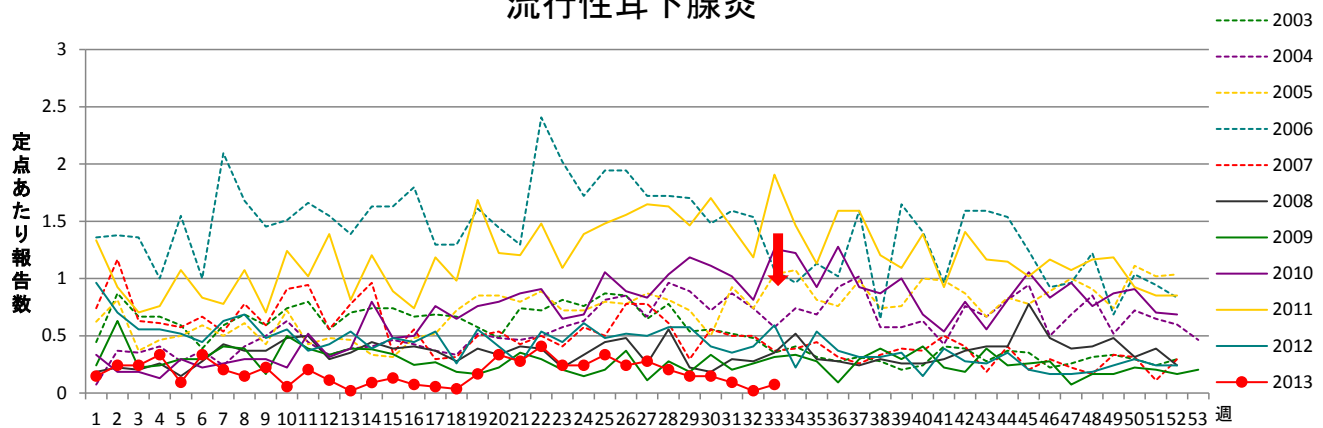
百日咳



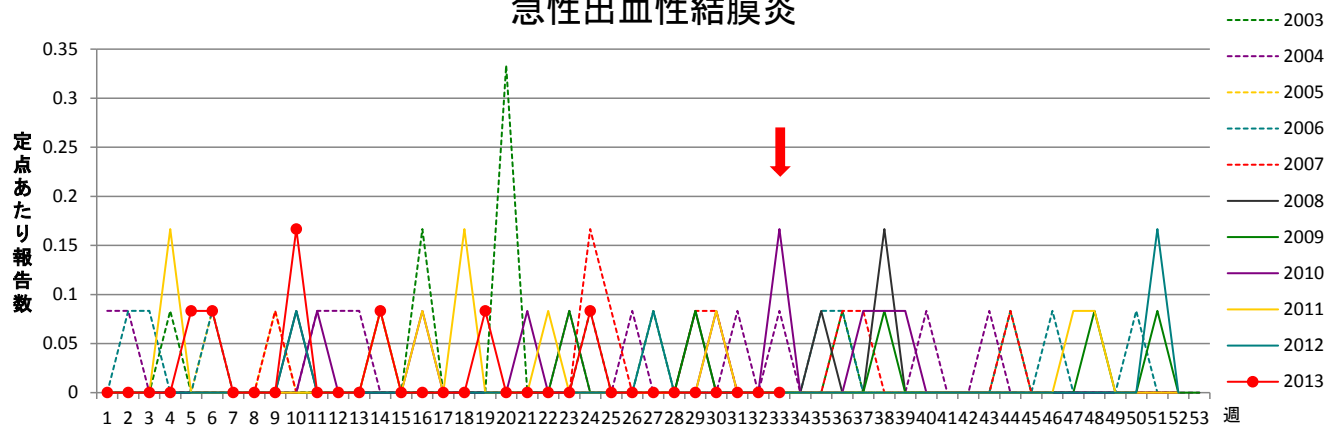
ヘルパンギーナ



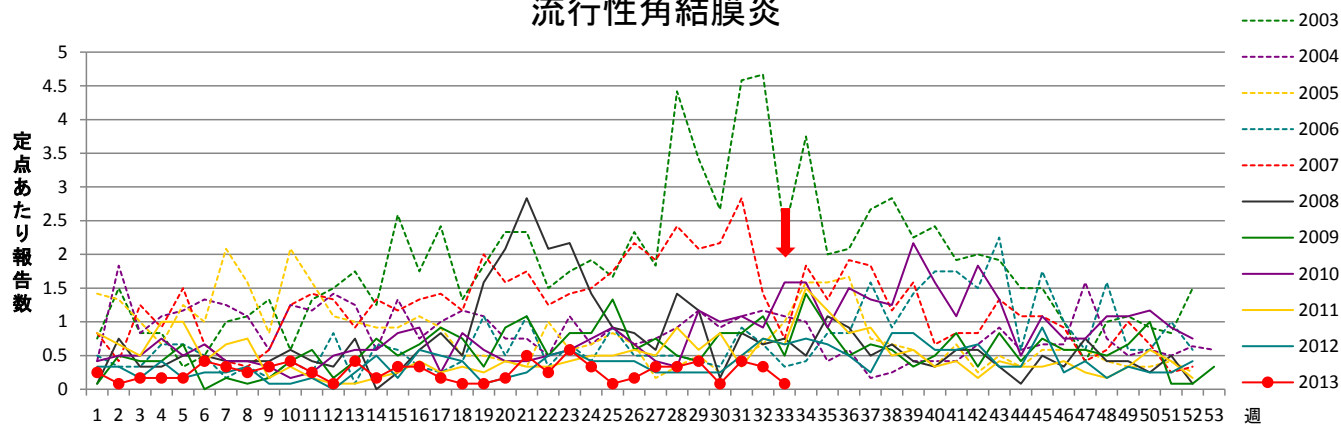
流行性耳下腺炎



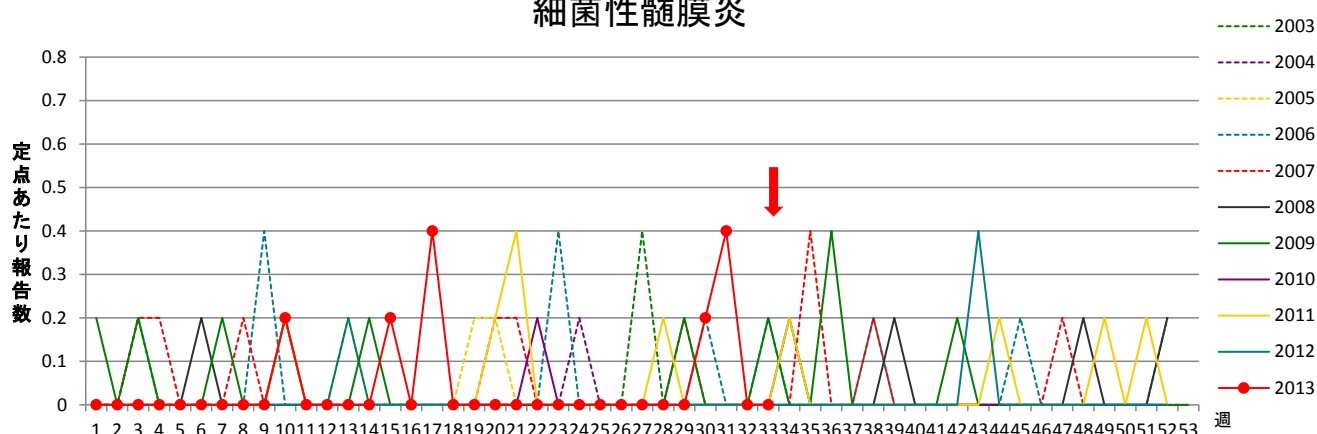
急性出血性結膜炎



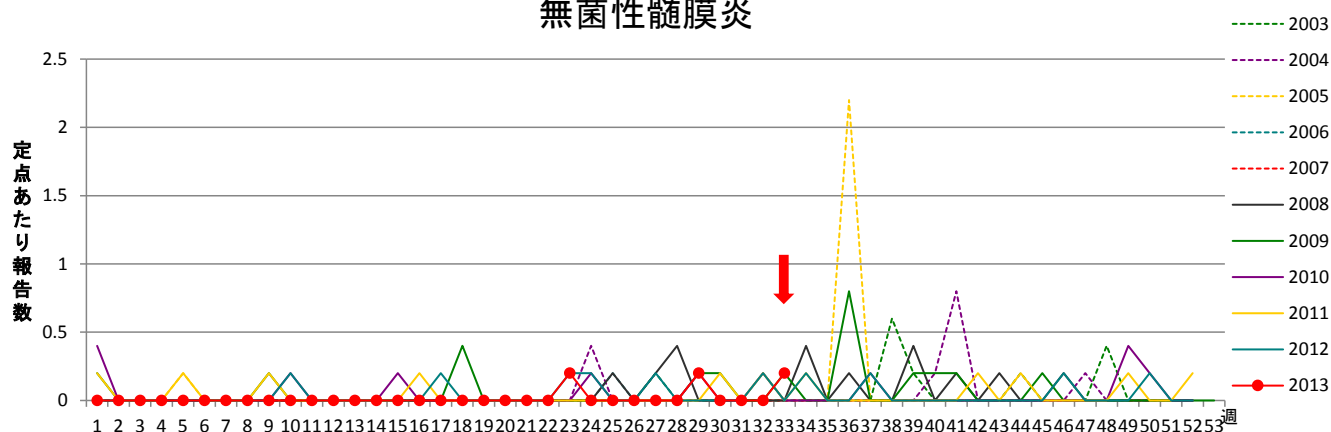
流行性角結膜炎



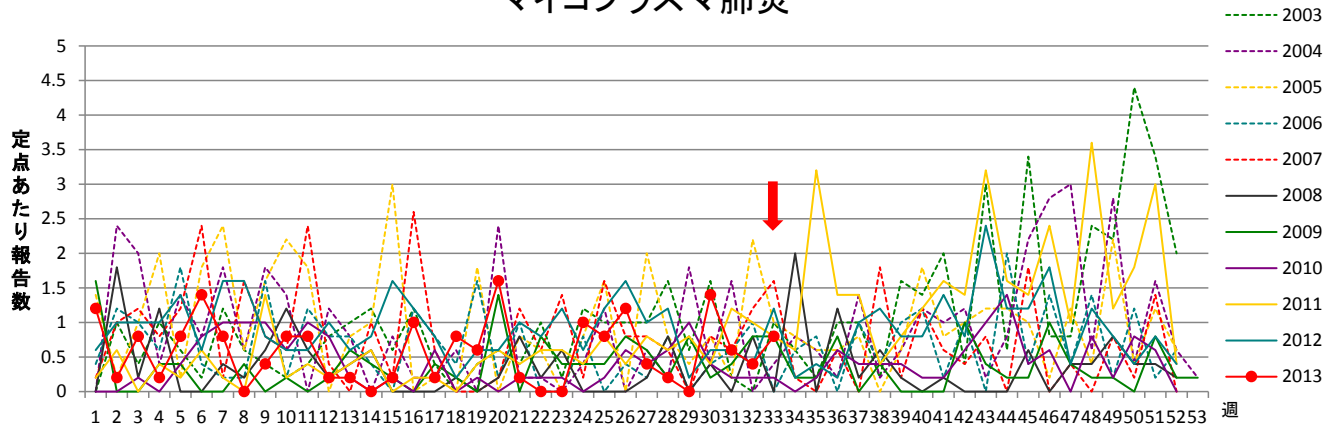
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

